

## (4) 幼年会と座間小学校

### ①座間小学校に組長制度を導入

- 1902年(明治35年)、19才の利貞さんは、座間小学校に勤め始める。
- 利貞さんは、幼年会での経験を生かし、「子ども達こそが将来理想の座間村を創る人材だ」と、工夫した教育実践を行っていった。
- その頃、隣近所の子ども達が誘い合わせて登校する、という形で集団登校が自然発生的に行われていた。
- やがて一部の地区の子ども達が「通学生の心得」を作成したり、「通学日誌」を記したりするようになると、すぐに他の地区にも広まっていった。
- このような子ども達の行いから、リーダーが育つことの大切さを感じた利貞さん達座間小学校の教師は、1908年(明治41年)子ども達の自治を育てるため、「組長制度」を導入した。組長制度は、学級の組長、登校班の組長をリーダーとして育成し、これらの組長がリーダーシップを持って児童生徒を指導していく体制である。

幼年会活動や利貞さんの教えの影響を受け、すでに年長者が年少者をいたわるという心が育っていた子ども達だったので、自然と「上級生は下級生のめんどろをみよう」「下級生は上級生の指示にしたがい、けんかやはしたくないことをしないように」などと話すようになっていきます。こうして「通学生の心得」が作られました。

やがて登校班のリーダーは、「通学日誌」を記すようになります。ここに書かれたことが地区担当の先生に伝えられ、よい行いがみんなの前でほめられたり、悪い行いはそっと注意されたりして子ども達の励みになっていきました。



## ②座間村幼年会設立

- ・座間小学校の11の通学区域全てに設立されていた幼年会を統一し「座間村幼年会」とした。
- ・幼年会活動が、学校教育の一環として座間小学校に正式に導入された。

かねてから利貞さんは、「よい子ども達を育てるには、社会（この場合は村）全体の協力が必要だ。それにはまず、幼年会を社会全体から認められるようにしなければならぬ」と考えていました。そこでまず、校長先生や他の先生の協力によって組長制度を導入しました。さらに、座間小学校全地域に漏れなく幼年会を設立することに成功しました。

1913年（大正2年）2月11日、11の幼年会が座間小学校に集まり、幼年会大会を開催した。この大会で、11の幼年会は「座間村幼年会」として統一した組織となりました。



## ③倶楽部を建設する

- ・座間村幼年会は各地域で活発な活動を展開していく。
- ・1916年（大正5年）、青年会の協力により、最初の倶楽部（集会所）、「皆原幼年倶楽部・青年倶楽部」ができる。
- ・その後、他の地域でも次々と倶楽部が建設されていった。
- ・村役場からは一銭の援助も受けず、全て地域の人々の力で建設・運営された。

幼年会が始まったところからの、「自分達が自由に集まれる場所が欲しい」という願いがいつにかなうことになりました。

1905年(明治38年)の鈴木直寿さん(利貞さんの弟)の日記には次のように記してあります。

「・・・夜は幼年会の夜学。集まった者は高等科一年以上十数人。・・・終って、以後河原宿の

卒業生の夜学をいかにすべきかの問題となる。以前から言っていたように田圃を耕作しよう

か。田さえあればたやすいことだ。米年二、三俵とれる田を作って、米二俵をもうけ、こう

して二、三年すれば三十円貯金が出来る。その金で二間三間の家は容易に買えるだろう。そ

れから二年、三年と続ければ学校のような机も出来、勉強しやすくなる。・・・」

当時農家の物置を夜学の場所としていた彼ら初期の幼年会メンバーがこうして始めた米作り

は、実際にはたやすい、とはいかず、苦勞しましたが、こうした活動や思いは後輩に受け継がれ

ました。また、彼ら自身も先輩として積極的に幼年会のサポートをしていきました。

倶楽部の入り口の左右には二つの看板、「青年倶楽部」と「幼年倶楽部」がかかげられました。大人

の会合にも使われましたが、青年や子ども達の自由に使える場所となり、雨の日には

子ども達の遊び場にもなりました。





④ だいいっかいしょうねんだん ジャンボリー たいかい ぜんこくたいかい さんか  
④ 第一回少年団ジャンボリー大会（ボーイスカウト全国大会）への参加

・ 1923年（大正11年）に東京で開催される。

・ 当時少年団と呼べる団体が全国にもほとんどなかった中、すでに長年に渡って活動してきた

実績がある少年団体として幼年会に注目が集まり、神奈川県代表として座間村幼年会が

参加することになった。

・ そこで小学5年生～高等科2年生の男子で「座間村少年団」が結成され、全国大会に参加した。

利貞さんは、「幼年会の名で参加したい」、「それまで一緒に活動してきた女子の参加も認めて欲

しい」と大会事務局に訴えたが認められませんでした。せめて幼年会員みんなの思いを込めて、

急ぎょ作成した幼年会の旗を持って行進することを認めてもらおうとしたがこれも認められま

せんでした。そこで利貞さんは幼年会の旗を、チョッキの下に、腹巻きのように巻きつけて開会式

の列に加わりました。

幼年会が始まったころより、男女が協力して活動していくことを大切にしてきた利貞さんや

幼年会であったが、男女が一緒に何かをする、ということはまだまだ受け入れられない時代でした。

幼年会は、この時より「座間村幼年会」と「座間村少年団」という二つの組織が混在すると

いう形がしばらく続きます。



